

ベトナム語 là の取り扱いかたをめぐって

田原 洋 樹

アブストラクト

ベトナム語にはコピュラ là がある。これまで là は多くの研究者の興味関心を引き、用法に関する先行研究や専門書がある。ただ、日常の言語生活で là がどのように出現するのか、あるいはその機能についての分析、さらには語学教育での取り扱いをめぐっての考察は少ない。ベトナム語を教授する者、学習する者の双方にとって、極めて使用頻度が高い語であるにもかかわらず、実際のベトナム語運用能力の向上に資する解説が未だ十分でない。そこで本稿では、この là に関して、ベトナム本国と日本国内で公開されている語学書および教科書での取り扱いかたを考察しながら、これまでに顕かにされた文法機能を概観する。その上で、学習者が理解し、納得しやすいような解説を試みたい。

キーターム： là、コピュラ、名詞 1 + là + 名詞 2、感情や思考を表現する動詞 + là + 語句または節

1. là の取り扱いかたをめぐる問題の所在

本稿は、ベトナム語のコピュラ là を考察するものである。特に、語学書や教科書での取り扱いかたに重点を置いて論考し、さらに外国語としてのベトナム語の講義において、実際にどのように指導していくのか、どのように理解させていくのかについても掘り下げてみたい。

(1) 語学書に見る là

là の文法的機能を考察した先行研究に宇根祥夫「< là > についての一考察」がある¹。この冒頭で、宇根は「この là は繫詞（コプラ）であるが（中略）特に、〔名詞 1 + là + 名詞 2〕のパターンの場合を中心に検討」したいと述べた。そして、主述関係・主副関係、題述部²、その他の用法の 3 種に大別した上で、それぞれを実際に検討している。

他方で、là はベトナム語学習の極めて初期の段階で出現する、いわゆる重要語である。日本国内で出版されたベトナム語学習書を見ると、以下のように取り扱われている。

宇根は『初めて学ぶベトナム語』³の「基本文型と基本語句」で、「イコール文」として取り上げている。「イコール文とは主部と述部が同一であることを表わす文」とし、「主部—là—述部」を基本的な語順としてパターン化している。

細井佐和子の『ベトナム語を学ぶ』でも、やはり第 1 課で出てくる。ただし、là は同著で文法や表現を解説する《ポイント》欄ではなく、《語句》欄で取り上げられ、「主語（主部）と述語（述部）が等しいという意を示します」との説明が施されている⁴。

また、三上直光は近著『ニューエクスプレス ベトナム語』で、「『A は B（名詞）です』という文は、主語と名詞を là 『～である』でつなぎます」と解説している⁵。なお、ここでも là は基本語順という見出しで始まる項目に配置されていることから、ベトナム語に向き合う時には、学習者、指導する者の双方に避けて通れない文法事項であると言えよう。

筆者には、ベトナム語初級者用の出版物に共通する、主語あるいは主部、述語あるいは述部などの用語も若干の蟻りがある。こうした用語に熟知している、とは言わないまでも、一読で理解できる程度の力を前提としているのだろうか。もちろん商業出版である以上は企画全体の制約、字数や頁割の

問題もあろうが、例えばlàが「主語(主部)と述語(述部)が等しいという意」では具体的な用法を思い浮かべるのは容易ではないだろう。

(2) 語学書でよく見えないlà

上述したA là B. はほとんどの語学書で取り扱われるが、動詞にlàを後置させて、さらに句または節をつなげる用法、まさに「英語のthatと似たような働きをする⁶⁾」làの用法については、即座に理解できる説明がなされていないのが実情である。さらには、例えばベトナムの商店で古く汚れた紙幣の受け取りを拒否された時に言う“Tiền là tiền.”(「お金はお金。」金には変わりがないのだからと受け取りを促す)のような名詞を繰り返すlàの用法、感嘆や強調で形容詞を繰り返すlàの用法も、学習者に対する示しかたを考えてもよいのではないか。

(3) 本稿で取り扱う諸問題

ここまでに触れた文法事項は、いずれも「知っている者は知っている」し、「分かっている者は分かっている」ことである。「そのように」習い、「そのように」学んできたからである。しかし、そうした文法事項を循環させる、つまり次の学習者、なかんずく初学者を前にした時にどのように取り扱うのかは、自身の理解とは別の問題であろう。そこで本稿では、まずlàを機能により分類し、その上で学習者に分かりにくい点、特にベトナム語の知識および運用能力のある者があまり注意を払わない点を中心に論考する。

2. làの機能を考える

(1) 名詞1 + là + 名詞2の場合

まず、名詞1 + là + 名詞2を考えてみる。

ベトナム語の文法家であり、外国語としてのベトナム語教育の第一人者でもあるホアン・チョン・フィエン⁷⁾は自著 *Từ điển giải thích hư từ tiếng Việt*⁸⁾で「繫詞、特別動詞」としている⁹⁾。品詞分類に続き、「実際には、フランス語におけるêtre、中国語における是に相当して、使用することができる」と説明がある。しかし、この特別動詞という言いかたは、奇異に映る。第一に、この本で特別動詞の位置づけが明確でない、つまり「特別でない」動詞と比して如何なる点が特別なのか、là以外に特別動詞はあるのか、などの疑問を生じさせている。

他方で、グエン・フー・フォン¹⁰⁾は、フランス語におけるêtreと対比させることの危険性を「làは繫詞である。しかし、làを説明する時に、フランス語の動詞êtreを持ち出してくるので、この説明は多くの誤りを生んでしまう¹¹⁾」と述べていて、興味深い。

フィエン同様に、làを特別動詞と分類しているのがホアン・フェーほかの *Từ điển Tiếng Việt*¹²⁾ (『ベトナム語辞典』)である。この辞典には特別動詞という語が見出し語にない。また、凡例にも取り上げられていない。つまり、辞書で説明されていない文法用語を持ち出している点が、かなり強引な印象を与えている。

別の観点から見ると、この2冊は、品詞分類の曖昧さを補うように、意味ではなく用法についての説明が充実している点が共通しており、そこに先達の工夫を伺うことができる。

フィエンの著作には、まずlàについて=記号(イコール)と同じような意味を持つ語であり、名詞あるいは名詞、形容詞句を述語とする文において2部分(訳注:主語と述語か)の間に置かれる、たいてい主語と述語が同一関係にある、làは=記号と交換可能であることが多いと記してある。続いて、làの具体的な用法を7項目に分類して解説している。うち1番目が、フィエン自身が「=記号(イコール)と同じような意味を持つ語」と述べた繫詞の例である。「主体と、述部で示され、または解説されている主体の特徴や性格が同一関係にあることを表わす」làにおいて、例として、

ベトナム語 là の取り扱いかたをめぐって

Tôi là sinh viên.
わたし 大学生
(わたしは大学生である)

などが挙げられている。

一方、フェーほかの辞典には、対象を示す部分と内容を表わす部分、または対象を示す部分とその対象の特徴を示す部分との関係を表示するとの記述がある。前者の例として、

Hà Nội là thủ đô nước Việt Nam.
ハノイ 首都 国 ベトナム
(ハノイはベトナム国の首都である)

後者の例には、

Anh ấy là giáo viên.
彼 教師
(彼は教師である)

が挙げられている。これは、宇根が「絶対的同一 即ち、名詞 1 = 名詞 2 の場合」として Hà Nội là thủ đô của Việt Nam. (ハノイはベトナムの首都です) を例示し、「絶対的同一であるから当然のこととして、順序を逆にしてもよい」と述べ、 Ông Mi-ya-da-oa là nhà chính trị. (宮沢氏は政治家です) を具体例にして「個別的で狭義の名詞 1 が一般的で広義の名詞 2 に含まれている場合」は、「政治家はたくさんいるので、Nhà chính trị là ông Mi-ya-da-oa (政治家は宮沢氏です) は不可」と述べていることとほぼ一致している¹³。

なお、フォンの「述語が動詞、あるいは性詞である場合は、主語と残りの部分の間に là を置く必要はない。要約すると、名詞述語文において〔主語〕名詞 là 〔述語〕名詞、動詞述語文では〔主語〕名詞〔述語〕動詞である」は簡にして要を得る説明であろう。

ここまで見てきたことをまとめると、以下のような取り扱いかたが可能であろう。

A (名詞 1) là B (名詞 2) の文では、A は B である、A = B を表現できる。B が A の内容を表わし、A と B が絶対的同一である場合、A と B の入れ替え可能。B が A の属性や特徴を表わす名詞であれば、入れ替え不可。

なお、宇根は論文中で以下の例を取り上げ、名詞 1 + là + 名詞 2 が「主副関係」にあるケースを説明している。

Người thanh niên là công nhân này học tiếng Việt.
人 青年 労働者 この 学ぶ 日本語
(この労働者である青年は日本語を学んでいる)¹⁴

Tôi muốn gặp những sinh viên là đảng viên.
私 ~したい 会う 複数 学生 党员
(私は党员である学生たちに会いたい)

上の文において là を含む句は主語である thanh niên を、下の文では là を含む句が動詞「会う」の目

的語である *sinh viên* を修飾している。là 以下の語 (すなわち名詞 2) が名詞 1 を修飾する、あるいは限定するケースである。

ここで、là 以下は語だけなのか、あるいは句や節も可能なのかを考察しておく。宇根の例文に手を加えた、

Tôi muốn gặp những sinh viên là đảng viên Đảng Cộng sản Việt Nam.
 党 共産 ベトナム

(私はベトナム共産党員である学生たちに会いたい)

Tôi muốn gặp những sinh viên là đảng viên mới kết nạp đảng.
 ~したばかり 加盟する

(私は、入党したばかりの党員である学生たちに会いたい)

の2文であるが、là 以下を「ベトナム共産党員」、「入党したばかりの党員」と句や節にすることも可能であることが分かる。「主副」の関係にあるともいえるが、名詞 2 が名詞 1 に果たす機能に着目して「被修飾・修飾ないし被限定・限定」の関係にあると説明するのも理解の一助となる。

(2) 感情や思考を表現する動詞 + là + 語句または節

次に、感情や思考を表現する動詞に là が付いて、その動詞の内容となる語句または節が là 以下に続く場合を考察する。

ベトナム語で感情や思考を表現する動詞には *tin* (信じる)、*chắc* (確信する)、*hy vọng* (希望する)、*ước* (願う)、*muốn* (欲する)、*nghĩ* (思う、考える)、*biết* (知っている)、*nói* (話す)、*coi* (見なす)、*nghĩa* (意味する) などがある。これらの動詞に後続する là の用法について、例えばフィエンは「認識、感情・思考、発話の意味を持つ動詞の後ろの部分に繋げる機能を持つ」と説明し¹⁵、フエ¹⁶は外国人学習者を主なターゲットにして編纂した *Từ điển ngữ pháp tiếng Việt cơ bản*¹⁷ の中で「*nghĩ, cho, biết, nói, khen* (褒める)、*chê* (貶す) など、感情・思考、認識、発話の動詞の後に用いられ、以下に述べられる事柄がその動詞の内容であることを示す」としている。実際の講義での取り扱いとしては「英語の *that* 節と似ている」と説明することが多い。また、よく似た語に *rằng* があるので、相互に書き換え可能であることも説明する。

ただし、筆者はこの説明で十分とは考えていない。là と *rằng* の使い分け、あるいは相互に書き換え可能としても、それが無条件に可能なのか、何らかの制約を伴うのかについての説明が必要である。

là は話し言葉の中で用いられることが多く、*rằng* は文章語、あるいは口頭表現の中でも厳粛さを必要とするスピーチや講演などで使用される。

さらに、例えば、

Theo tôi nghĩ là anh ấy đã đi Hà Nội.
 従う 私 考える 彼 - た 行く ハノイ

(私が考える限りでは彼はハノイに行った)

Theo tôi nghĩ rằng anh ấy đã đi Hà Nội.

(私が考える限りでは彼はハノイに行った)

のように、là と *rằng* は節を導くことが可能である。

しかし、*Ai đi Hà Nội?* (誰がハノイに行ったか?) に対する回答として、

ベトナム語 là の取り扱いかたをめぐって

Theo tôi biết là anh ấy.
従う 私 知る 彼
(私が知る限りでは彼だ)

は可能であるが、

Theo tôi biết rằng anh ấy.*

は不適切である。従って、là は句および節の両方を導きうるが、rằng は句を導くことができない。

以上をまとめると、次のような解説が可能である。

感情や思考を表現する動詞には、その動詞の内容となる語句や節が続く。là は語句、節ともに取ることができ、この là とよく似た働きをする rằng は節のみを取る。なお、là は主として口語で、rằng は文章中や、スピーチ、講演などで使用されることが多い。

(3) 同一語の繰り返しに用いられる là

主に形容詞について、その程度が著しいことを表わすために、以下の形式が用いられる。

Cảnh ở đây đẹp ơi là đẹp.

景色 で ここ 綺麗

(この景色はとても綺麗だなあ)

Trời mưa, đường trơn trơn là.¹⁸

天気 雨 道 滑る

(雨が降った、道がとても滑るなあ)

これら、A (形容詞) ơi là A.、または AA là. の形式は主に口語表現で用いられる。

また、程度が著しいことを表わす時に頻繁に用いられる表現として、以下にも言及しておきたい。

Cô ấy rất là đẹp.

彼女 綺麗

(彼女はとても綺麗だ)

Cô ấy cực kỳ là đẹp.

cực kỳ は「それ以上がない、最上の」を意味する。この文は Cô ấy đẹp cực kỳ. と同義。

Cô ấy vô cùng là đẹp.

vô cùng は「最高程度の、描写の仕様がなほに最高な」を意味する。Cô ấy đẹp vô cùng. とも言うことができる。

他に hết sức là + 形容詞の形式もあり、やはり程度が著しいことを表わす。なお、上記の例では、いずれも là は繫詞ではなく、助詞と考えられる。

(4) 文頭の là

フィエンは「文頭において述語を強調する」ケースとして、文頭に là がある用例を示している。

Là một công dân, anh không hề từ chối mọi nghĩa vụ được giao.

1、或る 公民 あなた 否定 辞退する すべて 義務 受動 渡す

ベトナム語初学者の圧倒的多くが、既に英語の学習を経験している。そして、彼らが最初に「出会う」là は、本文で最初に取り上げた〔名詞 1 là 名詞 2.〕である。単調であるとは分かりながらも例文としては、Tôi là người Nhật. (私は日本人だ) などをういがちである。そうすると学習者は「là は、英語で言えば be 動詞のようなものだ」と合点し、それで覚えこんでしまう。学習が進み、様々なパターンが出てくると、最早お手上げである。

そもそも英語とは全く異なるベトナム語を学ぶときに、母語である日本語との対照ならともかく、英語と対照してしまうところが、英語教育が内包する「負の力」が作用していると考えられるが、学習者の「là は be 動詞のようなもの」という気づきに対して、我々は必ずしもそうではないことを一度は説かなければならない。

ベトナム語の文法事項を、ベトナム語のしくみを示しながら、ベトナム語の用例を豊富に用いて解き明かしていくことの方が、「英語ではこう」、「日本語ではこう」と安直に 1 対 1 の対照を示していくことよりも正確な理解を生むような気がしてならない。

注

1. 宇根祥夫「< là > についての一考察」『東京外国語大学論集』第46号、1993年。
2. 宇根は「この là は主題部と題述部の境界を明示し、かつ補足語を強調する機能を持つ助詞と解釈すべきだろう」と述べている。
3. 宇根祥夫『初めて学ぶベトナム語』語研、1997年、44ページ。
4. 細井佐和子『ベトナム語を学ぶ』あるむ、2001年、15ページ。
5. 三上直光『ニューエクスプレス ベトナム語』白水社、2007年、22ページ。
6. 宇根 (1993)。
7. Hoàng Trọng Phiến ベトナム中部ダナン生まれ。旧ハノイ総合大学で外国人向けのベトナム語教育部門責任者を務める。その後、東京外大客員教授、ハノイ国家大学教授を歴任し、2000年退官。
8. Hoàng Trọng Phiến, *Từ điển giải thích hư từ tiếng Việt*, 東京外国語大学、1991年。なお、表紙タイトルには『現代越語虚詞解析詞典』の漢字が添えられている。
9. 訳は筆者による。以下も格段の断りがない限りは筆者訳。原文には hệ từ, động từ đặc biệt と書かれている。
10. Nguyễn Phú Phong ベトナム中部ダナン生まれ。Centre National de la Recherche Scientifiqueなどでベトナム語研究を行う。
11. Nguyễn Phú Phong, *Những vấn đề ngữ pháp tiếng Việt*, Nhà xuất bản ĐHQG Hà Nội, 2001, p194.
12. Hoàng Phê (et al), *Từ điển Tiếng Việt*, Nhà xuất bản Đà Nẵng, 2008.
13. 宇根 (1993)。ただし、順序を逆にできるか否かを絶対的同一、個別的 一般的や狭義 広義という概念を持ち出して論考しているため、辞書の説明よりも具体的で分かりやすいと言えよう。
14. 同上。下の例文も同じ。なお、日本語訳については「労働者であるこの青年は日本語を学んでいる」とした方がよいのではないかと考える。これは、này (この) が限定するのは thanh niên であるため。
15. Hoàng Trọng Phiến (1991)。
16. Nguyễn Văn Huệ ベトナム南部ロンアン生まれ。東京外大客員助教授を経て、ホーチミン市国家大学「外国人のためのベトナム語・ベトナム学」学部長。ベトナム語の他に、ムノン語など少数民族の言語についての著作も多い。
17. Nguyễn Văn Huệ (et al), *Từ điển ngữ pháp tiếng Việt cơ bản*, Nhà xuất bản ĐHQG tpHCM, 2003, p168-181.
18. この形式は最近ではほとんど見られない古い表現。また、主として北部方言の話者に見られる。
19. Hoàng Trọng Phiến (1991)。

20. 宇根 (1993).
21. 同上.
22. 宇根 (1997) \ 44ページ.
23. Nguyễn Phú Phong (2001).
24. 形容詞もlàを伴わずにそのままで述語になることが可能であり、従って否定にはphảiを必要としないと言えよう.

参考文献

- 細井佐和子(2001年)『ベトナム語を学ぶ』あるむ.
- 三上直光(2007年)『ニューエクスプレス ベトナム語』白水社.
- 宇根祥夫(1993年)「<là>についての一考察」『東京外国語大学論集』第46号.
- 宇根祥夫(1997年)『初めて学ぶベトナム語』語研.
- Hoàng Phê *et al.* (2008). *Từ điển Tiếng Việt*, Nhà xuất bản Đà Nẵng.
- Hoàng Trọng Phiên. (1991). *Từ điển giải thích hư từ tiếng Việt*, 東京外国語大学.
- Nguyễn Phú Phong. (2001). *Những vấn đề ngữ pháp tiếng Việt*, Nhà xuất bản ĐHQG Hà Nội.
- Nguyễn Văn Huệ *et al.* (2003). *Từ điển ngữ pháp tiếng Việt cơ bản*, Nhà xuất bản ĐHQG tpHCM.